

大学等におけるインターンシップ表彰の概要について

目的

学生の能力伸長に寄与するなどの高い教育的効果を発揮しており、他の大学等や企業等に普及するのに相応しいモデルとなり得るインターンシップを、グッドプラクティスとして表彰し、その成果を広く普及する。

公募期間：令和3年11月5日～12月8日

対象資格：「大学等におけるインターンシップの届出制度」における取組を実施している
大学・短期大学・高等専門学校

申請件数：32校（大学：25校、短期大学：5校、高等専門学校2校）

表彰：【最優秀賞】大阪夕陽丘学園短期大学

【優秀賞】就実大学、徳山大学、石川工業高等専門学校

大学等におけるインターンシップ表彰選考基準・項目

- ① 就業体験を伴うこと
- ② 正規の教育課程の中に位置付けられていること
- ③ 大学等の組織的な取組として位置づけられていること
- ④ インターンシップ実施後の教育的効果を把握する仕組みが取られていること
- ⑤ 5日間以上のインターンシップの実施期間が確保されていること
- ⑥ 大学等と企業等が協働した取組となっていること

<大学等におけるインターンシップ表彰選考委員会>

駒井 永子 一般社団法人日本経済団体連合会 SDGs本部副本部長

近藤 学 公益社団法人経済同友会 総務部調査役

西條 秀俊 新潟大学教育・学生支援機構教育プログラム支援センター 准教授

佐久間 一浩 全国中小企業団体中央会 事務局次長・労働政策部長

佐々木ひとみ 早稲田大学 常任理事(選考委員会座長)

高瀬 和実 岩手県立大学高等教育推進センター 准教授

藤田 晃之 筑波大学人間系 教授

増本 全 (株)リクルート就職みらい研究所 所長

松高 政 京都産業大学経営学部 准教授

村田 真 日本商工会議所産業政策第二部 主任調査役

受賞校一覧

大学等名	科目名	主な評価のポイント
大阪夕陽丘学園短期大学 最優秀賞	企業実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ	<p>・学長のリーダーシップの下、キャリア創造学科の新しいコース「産学連携キャリア創造コース」を設置して実施するなど大学等の組織的な取組として位置づけられている。</p> <p>・大学が掲げる教育目的が、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」と連動している体系的なプログラムとなっている。</p> <p>対象：キャリア創造学科、産学連携キャリア創造コース 1年 必修 参加学生：11名 企業における就業体験日数：86日</p>
就実大学 優秀賞	長期インターンシップ	<p>・インターンシッププログラムには企画・立案・運営・評価について経営学部の全教員が参加しており、長期インターンシップ運営委員会において、インターンシップの実施体制・実施状況の組織的なモニタリングを行うなど大学等の組織的な取組として位置づけられている。</p> <p>対象：経営学部 2年、必修 参加学生：77名 企業における就業体験日数：50日</p>
徳山大学 優秀賞	アーリー・エクスポージャー型インターンシップ	<p>・早期の就業観育成のために1年生を対象にした必修科目であり、受入企業等32社は全て周南圏の地元企業等で業種も広範囲となっており、次年度のインターンシップへつなげるなど、地域共創型インターンシップとして正規の教育課程に位置づけられている。</p> <p>対象：経済学部、福祉情報学部 1年 必修 参加学生：64名 企業における就業体験日数：5日</p>
石川工業高等専門学校 優秀賞	インターンシップ	<p>・独自の「技術振興交流会会員企業」等との意見交換や交流の機会が定期的にあることやインターンシップ後、学生がどのように成長したかをインターンシップ受入企業担当者も確認できる仕組みがあることなど大学等と企業等が協働した地域における人材育成の取組となっている。</p> <p>専攻科1年、必修 参加学生：22名 企業における就業体験日数：56日</p>

インターンシップの概要

目的：長期の就業体験及び事前・事後の学修を通して、他者と協力して、問題解決しようとする姿勢を持ち、自分の人生を自分で切り開いていく環境適応力を身につける。

対象：キャリア創造学科、産学連携キャリア創造コース 1年 必修 参加学生：11名 企業における就業体験日数：86日

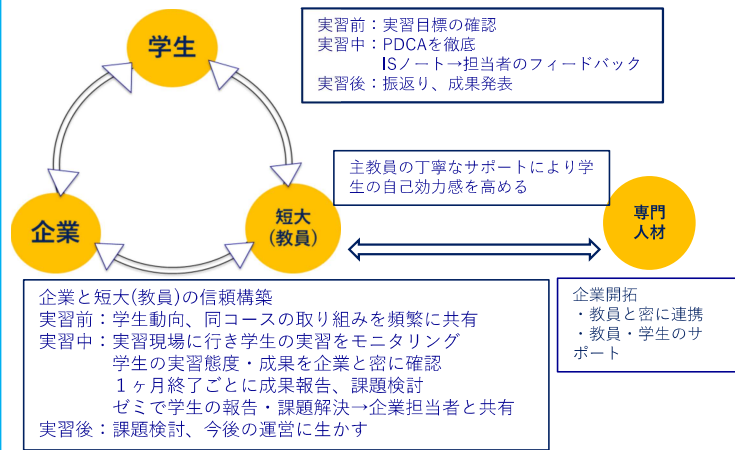
受入企業：(株)アクトフヤマイチ、(株)近鉄百貨店、スイスホテル南海大阪、司法書士事務所ともえみ、ナカザワ建販(株)、(株)オンワード樺山、セントラルフルーツ、(株)アルゴセキュリティー、(株)エムズブランニング 計9社

概要：連携協定を交わした複数企業における総計86日におけるインターンシップをコアにした学内の学修と企業実習の融合したコーオブ教育による長期プログラム

評価のポイント

- **大学が掲げる教育目的が、「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」と連動しており、正規的教育課程の中で位置づけられおり、1年後期（1人3社3ヶ月間、1社あたり1ヶ月間、週3日の無給インターンシップ、実習日数36日）、2年前期、1社に絞って3ヶ月間、週4日の有給インターンシップ、実習日数50日）の2年間でトータル86日という長期間にわたり、充実した就業体験ができ、コロナ禍においてもPCR検査を活用するなど工夫をしているなど体系的なプログラムとなっている。**
- **長期及び有給インターンシップがインターンシップ運営について互いの狙いがすり合う目的の設定を行うことで、「一緒に学生を育てている」マインド形成を図っていることや学内に企業等の関係者との情報・意見交換ができる「コーオブ教育研究所」を設置し、企業との関係を推進しており、大学等と企業等が協働した取組となっている。**
- **「教学マネジメント指針」などを踏まえ、学長のリーダーシップの下、キャリア創造学科の新しいコース「産学連携キャリア創造コース」を設置していることやインターンシップ専門人材を配置するなど大学等の組織的な取組として位置づけられている。**

目指す学生像：社会で生き抜く力を育む。知識と経験の融合と他者と積極的に関わる力をつける。他者と協力して、問題解決しようとする姿勢を持ち、自分の人生を自分で切り開いていく環境適応力を身につける



問合せ先

大阪夕陽丘学園短期大学キャリア創造学科
産学連携キャリア創造コース 准教授 神殿織江
Tel:06-6771-5183 Mail:o.kodono@oyg.ac.jp

就実大学『長期インターンシップ』

インターンシップの概要

目的：①学部教育の早い段階で社会・企業の実態に触れ、②経営学の専門知識を学習するだけでなく実践できるようにし、③主体性を持って経営学的課題に学生自ら取り組むことで、④自らの考えを表現する能力を身につける

対象：経営学部 2年、必修 参加学生：77名 企業における就業体験日数：50日

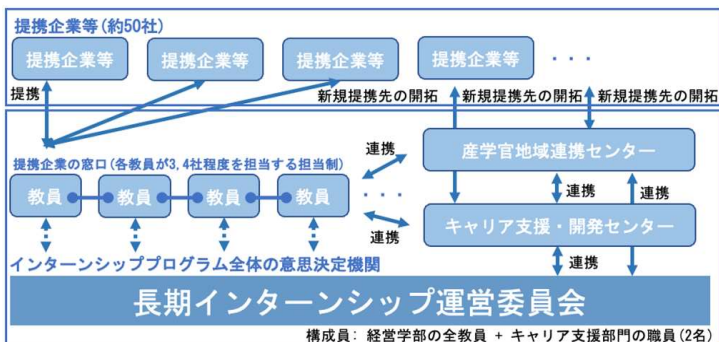
受入企業等：岡山市中区役所、菅公学生服グループカンコーマネポネクト(株)、(株)グロップ、(株)ストライプインターナショナル、(株)中国銀行、中国電力(株)、(株)トミヤコーポレーション、両備ホールディングス(株) 他52社

概要：学部教育の早い段階(2年次)での地域(岡山県下)に根ざした約50社に及ぶ企業等の経営学的課題の解決に学生自ら取り組む長期間(50日間)のプログラム

評価のポイント

- **企業等での就業体験実施日数は50日(約15週間)、8単位の必修科目であり、学生は、自身の能力・資質・興味関心に合わせ、岡山県下約50社の企業等が提供するプログラムから自ら参加する実習を選択し、77名が参加しているなど一定の規模がある。**
- **インターンシッププログラムには企画・立案・運営・評価について経営学部の全教員が参加しており、長期インターンシップ運営委員会において月1回定期的に開催し、インターンシップの実施体制・実施状況の組織的なモニタリングを行うなど、大学等の組織的な取組として位置づけられている。**
- **教育的効果の把握をルーブリックを活用しながら、定量的、定性的に評価を実施していることや実習の教育的効果の質を一定に担保するために企業等側から学生の实習に対する姿勢・意欲をアンケートによって定量的・質的に評価してもらい翌年度の改善に生かすなど教育的効果把握する仕組みがとられている。**

インターンシップの運営体制



問合せ先

就実大学・就実短期大学 キャリア支援・開発課
Tel: 086-271-8132
Mail:internship@shujitsu.ac.jp

徳山大学『アーリー・エクスポージャー型インターンシップ』

インターンシップの概要

目的：周南圏域企業等への早期就業体験による地域理解の促進、キャリア意識形成、域内就職への意識醸成

対象：経済学部、福祉情報学部 1年 必修 参加学生：64名 企業における就業体験日数：5日

受入企業：西京銀行、(株)ホテルサンルート徳山、トクヤマ海陸運送(株)、(株)シティーケーブル周南、(株)KRYサービスステーション、周南システム産業(株)、徳山興産(株)、周南市立徳山駅前図書館、他24社、合計32社

概要：大学の「地域共創センター」と地元企業等との組織体である「周南創生コンソーシアム」が協働してプログラムを運営し、周南圏域（周南市、下松市、光市）の人口減少、特に若者の減少という地域課題を解決する為、学生の地元就職率の向上を目的としたプログラム

評価のポイント

- 早期の就業観育成のために1年生を対象にした必修科目であり、受入企業等32社は全て周南圏域の地元企業等で業種も広範囲となり、次年度のインターンシップへつなげるなど、地域共創型インターンシップとして正規の教育課程に位置づけられている。
- 大学内でインターンシップ必修化プロジェクトを立ち上げ、教員4名、職員10名の計14名で運営していることや企画、授業内容の全員への理解、企業へのアプローチについての研修、事務運営についての研修などのSD・FD研修を複数回実施するなど、大学等の組織的な取組として位置づけられている。
- 「周南創生コンソーシアム」等の受け入れ企業32社と連携し、大学の教育目標と育成する人材像を共有したプログラムであること、また、令和4年度から在学中に2週間以上のインターンシップに参加することを卒業要件にし、令和5年度にはクォーター制を導入する計画であることなど、地方創生に向けた大学と企業が協働した取組となっている。

インターンシップ協力体制

大学と企業等との協働による地方創生の推進

徳山大学

- ・地域人材の育成
- ・地方創生への貢献
- ・「地域に輝く大学」の実現

企業・自治体等

- ・就業希望の促進
- ・企業等の理解促進・魅力発信
- ・地域人材育成への協力



問合せ先

徳山大学（R4年4月1日より周南公立大学）

地域共創センター キャリアデザイン部門

Tel:0834-28-5393 Mail:tu.carrier@tokuyama-u.ac.jp

（R4/1より tu.carrier@shunan-u.ac.jp）

石川工業高等専門学校『インターンシップ』

インターンシップの概要

目的：実践的な体験をとおして地域の産業や社会が抱える課題に積極的に対処できる

対象：専攻科1年、必修 参加学生：22名 企業における就業体験日数：5日

受入企業等：【電子機械工学専攻】(株)トランテックス、(株)グランゼーラ・ゲームスタジオ、東京ドロウイング(株)、EIZO(株)、(株)小松製作所、津田駒工業(株)、創屋(株)、アール・ビー・コントロールズ(株)、ホクショー(株)、(株)アイ・オー・データ機器、(株)金沢エンジニアリングシステムズ、シグマ光機(株)、クレスコ北陸(株)、澁谷工業(株)、(株)金沢村田製作所

【環境建設工学専攻】津幡町教育委員会、国土交通省北陸地方整備局、(株)NTTファシリティーズ北陸支店、(株)東洋設計、(株)丸西組、(株)継手意匠店、(株)日本海コンサルタント、石川県土木部 計23企業等

概要：技術振興交流会会員企業（約250社）の受入支援体制のもと、地元人材育成サイクルに貢献する持続可能な教育プログラム

評価のポイント

- 3か月間の実習期間及び事前指導Ⅰ、事前指導Ⅱ、事後指導を組み入れた10単位の必修科目であり、コロナ禍において、オンライン実習と実地実習の融合やインターンシップ報告会においてハイブリッド方式を確立するなど実施体制を強化している。
- 教育点検改善システムにおいて、プロセスに応じた組織がその役割を担う複数担当制となっているとともに、企業との協働を専門的にサポートする人材として地域連携コーディネータ2名が配置されるなど大学等の組織的な取組として位置づけられている。
- 独自の「技術振興交流会会員企業」等との意見交換や交流の機会が定期的にあることやインターンシップ後、学生がどのように成長したかをインターンシップ受入企業担当者も確認できる仕組みがあることなど大学等と企業が協働した地域における人材育成の取組となっている。

地域連携による実践的なグローバル人材育成ー地元人材育成サイクルー



問合せ先

石川工業高等専門学校学生課教務係

Tel:076-288-8031 Mail:kyomu@ishikawa-nct.ac.jp

令和3年度 大学等におけるインターンシップ表彰選考委員会 所見

今般、「大学等におけるインターンシップの届出制度」における取組の中から、学生の能力伸長に寄与するなどの高い教育的効果を発揮しており、他の大学等や企業に普及するのに相応しいモデルとなり得るインターンシップをグッドプラクティスとして表彰し、その成果を広く普及することを目的として、大学、短期大学及び高等専門学校から正規の教育課程におけるインターンシップの取組について公募を実施しました。

コロナ禍においてインターンシップを実施することが難しい状況にも関わらず、公募の結果、大学から25件、短期大学から5件、高等専門学校から2件の計32件の申請がありました。今回の申請があった取組の中には、コロナ禍を踏まえ、大学と受入企業がともに協働してオンラインを活用した実践など、新たなインターンシップのプログラムを構築している優れた取組も多数見られました。また、大学等の教育目標や授業における学びを、社会における実践と結びつけるために、綿密な事前学習や中間フォローの実施、受入企業等の開拓と継続的な実施のための良好な関係構築に努めている等の取組が多数見られ、各機関の高い意欲を評価する声が多くありました。

選考は、「大学等におけるインターンシップ表彰選考基準」に基づき、

- ①就業体験を伴うこと
- ②正規の教育課程の中に位置付けられていること
- ③大学等の組織的な取組として位置付けられていること
- ④インターンシップ実施後の教育的効果を把握する仕組みが取られていること
- ⑤5日間以上のインターンシップの実施期間が確保されていること
- ⑥大学と企業等が協働した取組となっていること

の6つの基準で書面による評価を実施しました。

選考の結果、最優秀賞として大阪夕陽丘学園短期大学、優秀賞として就実大学、徳山大学、石川工業高等専門学校を選定しました。大阪夕陽丘学園短期大学は、大学が掲げる教育目的が「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」、「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシ

一) と連動し、正規の教育課程の中で位置づけられ、学長のリーダーシップの下、体系的なプログラムとなっている点を高く評価し、最優秀賞といたしました。また、就実大学、徳山大学、石川工業高等専門学校は、仕事の実際を知ることや就業観の育成に資する職業体験が行われている点、インターンシップの様々な場面において、企業等との積極的な協働がある点など総合的に評価し、優秀賞といたしました。

今、コロナ禍において社会や人との心理的距離や実践力に対し不安を感じる学生が増えつつあります。その中で、大学等におけるインターンシップの取組は、学生・社会双方にとってますます重要な役割を果たすだろうと感じます。今回の表彰校の取組等を参考に、より多くの大学等がそれぞれの教育目的に沿ったインターンシップに取り組まれることを期待します。

令和4年3月25日
大学等におけるインターンシップ表彰選考委員会委員長
委員長 佐々木 ひとみ